

2014.10.31

ソーラボジャパン株式会社

量子カスケードレーザの製造能力を拡大

ソーラボ社(本社: 米国ニュージャージー州ニュートン)は、Corning社(NYSE: GLW)の量子カスケードレーザ(QCL) 事業と関連する光半導体技術の研究グループの買収を発表いたしました。Corning社は、センシング、科学、防衛関連市場向けにQCLの開発をおこなってきました。

Corning社より取得した資産および知的財産権は、米国メリーランド州を拠点とするソーラボ量子エレクトロニクス(TQE)部門に統合を予定しています。TQE部門は、2009年のCovega社買収によって設立した半導体製造拠点で、総面積は60,000平方フィート、大規模な垂直統合生産システムを有する製造施設となっています。この拠点は2012年11月に買収したQCLおよびインターバンドカスケードレーザ(ICL)メーカ、Maxion社の本拠地にもなっています。

TQE部門最高技術責任者(CTO) 兼ジェネラル・マネージャ、Peter Heim

「Corning社の先端光半導体研究グループを既設の光半導体製造拠点に統合することは、光半導体デバイスの生産能力の増強や、防衛、セキュリティ、商用、研究用途での利用を容易にするだけでなく、非常に優秀なR&D技術者のグループが加わることにより、今後の製品開発において我々の半導体レーザのコア技術が大幅に拡大することにもつながります。」

Corning社CTO、David Morse

「この買収によって、ソーラボ社のコア技術、市場への理解、生産能力が補完され、量子カスケードレーザの製品化を加速させるものと期待しています。」

ソーラボ社について

当社は、レーザおよび光エレクトロニクスの研究市場向け光学製品の垂直統合メーカーとして1989年に設立されました。この市場では常に多くの技術革新が生まれており、光学産業の研究分野に加え、産業分野、ライフサイエンス分野、医療分野、防衛分野においてもより貢献できるよう、当社はそのコア技術を拡張させてまいりました。

当社が有する製造施設は、ファブリペローレーザ、分布帰還型(DBF)レーザ、MEMS-VCSELレーザなどの半導体デバイス製造設備、ガラス製光ファイバ(石英、フッ化物、テルライト、中空コア)の線引き用ファイバタワー、MBE/MOCVD結晶成長装置、ガラスをはじめ広範囲にわたる材料加工設備、薄膜蒸着装置、オプトメカニクスおよび光エレクトロニクス製品の製造設備など、高度かつ多岐にわたります。

●英語でのプレスリリースはこちら≫ <http://www.thorlabs.co.jp/PressReleases.cfm?ReleaseID=81>

お問い合わせ先

ソーラボジャパン株式会社

Tel: 03-5979-8889

■ 製品に関するお問い合わせ≫ sales@thorlabs.jp

■ 報道関係者からのお問い合わせ≫ marketing.jp@thorlabs.jp

<http://www.thorlabs.co.jp>